

伊藤 丘城 筆



〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(088)833-4394 FAX(088)833-7373 <https://www.tosaobog.com>



2024 ホームカミングデーに集合した「4の会」のみなさん



5年振りの
学校開催
「4の会」実行委員長
安並 寛明 (54回生)

今年のホームカミングデー担当「4の会」の会合は初回から波乱含みの展開になりました。昨年まではコロナの影響で学校で開催ができませんでした、これは致し方のない事でした。しかし今年はコロナが5類感染症となり、人の交流も増えてきて、私ども54回の幹事会では、事前に学校開催を前提としてイベントなども考えていました、しかし会の冒頭同窓会本部から「今年も学校での開催はできません。」と言われ、「4の会」のメンバーはたぶん全員納得いかなかつたと思います。

結局、私どもの思いが通じたのか、最後は本部が動いてくれて、無事学校(ホーム)に「ホームカミングデー」が返ってくることが出来ました。その間実行委員長として多くの先輩や恩師に相談し、助言をいただいたり、ホームカミングデーの始まった「いきさう」や「始めた思い」などを教えていただいたことで、何としてもこの事業を成功させるという決意と、多くの卒業生に参加いただきたいという思いを強くしました。

「4の会」は私ども54回生から94回生までの4のつく卒業回生で組織されており、約半年前から準備してきました。最大40歳の年の差はありますが、誰も遠慮することなく、どちらかと言うと若いメンバーのほうが積極的に発言し、能動的に動いてくれたおかげで、いいホームカミングデーが開催できたと思っています。「4の会」のメンバーには本当に感謝しております。

最後に、当日は台風で交通機関が乱れる中、県内はもとより遠方より参加いただいた卒業生、当日のイベントに協力、bingoゲームの景品に協賛いただいた皆様、同窓会本部の方々、そして濱田校長に感謝申し上げます。

2024 ホームカミングデー

日時／令和6年8月17日(土) 12:00～

筆山ホール 講演会



私が出会った高知出身の作家たち

翻訳家・書評家（ペンネーム 大森 望）英保 未来 氏（54回生）

さすがの講演でした！「高知出身の作家」って17人もいたんですね！その全体像がよく理解できました。母校出身の倉橋由美子、黒鉄ヒロシ、坂東眞砂子先輩方などの、常人では知りえないようなエピソードを交え、とても興味をかきたてられるお話でした。特に珍しい話は、英保くんの幼少時、お家に来たこともあり、家族ぐるみでお付き合いのあった安岡章太郎の担当編集者になった話。もう一つ、ご両親とお付き合いのあった「保母のお登美さん」＝「宮尾登美子」に、幼少時の英保くんが子守をしてもらった話。まさに「へ～っ?!そんなことがあったの?!」って感じでした。貴重な講演、ありがとう！大盛況でした。

夕部 哲也（54回生）



▲同窓生でいっぱいの会場

特別授業

深層読み入門講座

～文学作品の行間を読み取るパターンを紹介～

元土佐中高等学校教諭 広井 護 先生（48回生）

広井先生の記念授業には、定員80名を大きく上回る、約110名の方にお越しいただき、実行委員や当日スタッフも生徒の一員として参加しました。物語を文字通りに読むのではなく、その奥の「深層」を読む楽しさを感じた50分間でした。

記念授業を快く引き受けてくださった広井先生、開催にあたりご尽力いただいた先生、事務局の方々、実行委員の皆さんに心からお礼申し上げます。小谷 玲誉（94回生）



2024 ホームカミングデー

日時／令和6年8月17日(土) 12:00～

5年ぶりの母校開催となったホームカミングデー。
印象に残ったのは、来てくださった皆様の嬉しそうな表情。
そこには「母校」という場所に対する得も言われぬ懐かしみが感じられ、お手伝いの身としては
「学校で開催出来て本当に良かった」としみじみと感じました。
この笑顔が、これからも世代を超えて永く続いていきます様に。窪田 淳夫 (64回生)

講演 & 試飲会

ブラインドティスティングってなに?!



大倉野氏と同級生の74回生たち

二年連続世界ブラインドティスティング選手権日本代表
二度の日本ソムリエ協会主催ブラインドティスティング
コンテスト日本一 大倉野 泰造 氏 (74回生)

学校ではワインではなく、市販のお茶でブラインドティスティングを参加者全員が体験。実際に興味深く、味や香りを文章で表現する奥深さを感じました。

10年ぶりの参加でしたが、久しく会っていない同級生との再会、懐かしいにも程がありました。来年も楽しみです。

吉松 孝(74回生)



講演

未来の社長トーク! ~継がない時代に継ぐ理由~



西川屋老舗 13代目跡取り 池田 真浩 氏(83回生)

栄光工業 代表取締役社長 伊藤 ちひろ 氏(84回生)

登壇者2人は跡取りとなるまでの経緯と事業への思いを語り、約60人がじっと耳を傾けました。2人のトークの共通点は、経営者として働くおじいさまやご両親が「楽しそうに仕事をしているように見えた」という点。『継がない時代に継ぐ理由』の一端が垣間見えました。

竹内 悠理菜(84回生)





来年のホームカミングデー 2025年8月16日(土)開催予定

学校近況報告

學校長 濱田 一志（58回生）



「さあ、土佐の本領発揮だ」

同窓会の皆様、平素より学校運営にご理解とご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。また、ホー

から、共通テストで新教科「情報」が追加されるため、小テストや長期休みの補習を充実させています。また、ICT整備も着々と進み、授業でのクロムブックの活用が増えています。

今年卒業した99回生はコロナ復帰1年

目の世代です。先輩たちのお手本を十分に見られなかつたにもかかわらず、様々な行事を見事に乗り切つて後輩たちにバトンを繋いでくれました。また、進路については国公立大学現役合格者数160名という土佐高史上最高の数字も残してくれました。

【基本情報】

生徒数は、中学759名、高校879名の合計1638名、1クラス約50人で、男女比はおよそ3：2です。

【授業】
高校の時間数は月曜日7限、火～金6限、土4限です。現高3（100回生）

【授業】

高校の時間数は月曜日7限、火～金
6限、土4限です。現高3（100回生）

テニス男女、自転車、陸上、ソフトボール

【高校部活動】は8月の北部九州インターハイ出場は5競技（バドミントン男、ハンボーラ女、自転車、水泳、陸上）であり、中でもバドミントンダブルスではベスト16まで勝ち上りました。新チームで臨む夏季大会では6競技（バドミントン男子、テニス男女、自転車、陸上、ソフトボール）が県で優勝し活気あふれています。

【フラスマッチ】は中学5月18・19日
高校7月17・18日に学校グラ、新グラ、
市営体育館にて行われました。バスケ、
バレーボール、ドッジ、ソフトボール、サッカー
の5種目が行われ、大いに盛り上がりま
した。

語は他の生徒たちにも良い刺激になつて
います。

【國際交流】

【中学部活動】は四国大会に12競技が、全中には4競技（水泳、ソフトボール、ソフトテニス、弓道）が出場を果たしました。中でも水泳部の三善君は400m個人メドレーにて県中学新記録を出して全国3位に輝きました。文化部も棋道、放送、英語研究、総合科学が全国大会で活躍してくれました。

【財務狀況】

運動会は雨天で日順延し9月23日（月）秋晴れの中立され、やぐらの立生感、進行のスピード応援合戦、ホームゲームなど圧巻でした優勝の行方は最後競技までもつれ、大組の3年ぶり優勝幕を閉じました。



▲まんが同好会 まんが甲子園準優勝



◆海外研修 オックスフォード大学にて

【財務狀況】

運動会は雨天で日順延し9月23日（月）秋晴れの中立われ、やぐらの立瓜ムなど圧巻でした。優勝の行方は最後競技までもつれ、大組の3年ぶり優勝幕を閉じました。



▲運動会のやぐら全員

弓道場の建替プロジェクトに向けて

佐野 良仁（65回生）

はじめに

卒業生の皆様、私は65回生の佐野良仁と申します。土佐中・高等学校弓道部で弓道を始めて、高知医科大学で、そして今も弓道を続けて弓歴40年になります。顧問の松崎大征先生、日比康貴先生、山脇康司先生が日頃の指導をされているので、邪魔をしない程度に時々弓道場で昇段審査前の射技・体配の指導に伺っています。

弓道場建替

土佐中・高等学校弓道場は楽しい想い出がいっぱい詰まった懐かしい場所です。その弓道場が老朽化と部員の増加で手狭となり、安全性が確保しづらくなつたため建替工事予定、令和7年度の運動会後に取り壊しを始めると濱田二志校長先生から伺いました。無理もありません。私が生徒の時から壁に穴が開き、床も「ここを踏むべからず」の場所があり、シャッターの支柱を立てるにはミリ単位の熟練の技が必要で上手く嵌つてもシャッターを閉めるにはぶら下がつて反動をつけないと閉ま



創部当時、川崎家道場をお借りして(右端／元吉先生)

りませんでした(床やシャッターはその後改修されました)がすでに経年劣化をきたしています)。

創部については河野剛久さん(34回生・写真右から2人目)の手記をいただき、昭和31年の春で初代顧問は元吉和夫教諭(通称・ガンキチ先生)という事がわかりました。そのころはまだ弓道場はなく、本校創立者の川崎幾三郎氏が戦後に私費で建設していた個人弓道場で練習したそうです。現在の弓道場は築60年前後になるようですが、「昭和何年何月に建ったのか不明」です。どなたかご存じの方がいらっしゃいましたら情報提供をお願いします。

弓道場お別れ会

思い出の詰まる弓道場の取り壊し前に弓道部OB/OGに可能な限り連絡して道場に集結し、「弓道場お別れ会」を開催しよう!と考えています。発起人は濱松晶彦さん(54回生)、

田中信久さん(61回生)、永野修さん(62回生)、正岡陽一郎さん(72回生)、

私・佐野良仁(65回生)です。その夜には弓道部卒業生で大懇親会をしようと!と計画しています。「まだ予想がつかないけど、200人以上かもしねない」と大風呂敷を広げて、三翠園の大宴会場を予約済です。**年10月12日(日)の夜**です。さあ、もう

後には引けません。濱田二志校長先生、道場解体はどうかこの日以降で交渉お願いします。弓道部卒業生の皆様、「蓋を開けたら20数名だった」となると佐野は困り果ててしまします。どうか奮つご参加いただけるよう、今から予定表に入れておいてください。

現在、各学年の主要メンバーに依頼して、ご案内のための連絡網を構築してもらっているところです。

ご支援のお願い

皆様にお願いです。弓道場建替には大変な費用が掛かるそうです。生徒たちが新道場で安心・安全に練習できるように、どうかご支援をお願いします。弓道部は男女とも県内で1、2位を争う強豪になり、全国大会にもしばしば出場しております。今年8月のホームカミングデー案内時に同封された払込用紙(来年も同封予定)あるいは、左記の二次元コードの新世紀募金にて**クラブ活動(指定→弓道部)**をご指定いただいて募金をお願いでされば幸いです。弓道部卒業の有無にかかわらずご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



手狭、危険!?



部員70人がひしめき合う現弓道場



▲新世紀募金

● 合格の状況 ●

国立大学	現	過	計	進学
北海道大	4	4	3	
東北大	1	1	1	
茨城大	1	1	1	
筑波大	1	1	1	
東京大	4	3	7	7
東京医科歯科大	1	1	1	
東京工業大	1	1	1	
お茶の水女子大	1	1	1	
東京学芸大	1	2	3	3
東京農工大	1	1	2	2
一橋大	2	2	4	4
横浜国大	3	3	3	
信州大	1	1	1	
岐阜大	1	1	1	
静岡大	2	2	1	
名古屋大	2	2	2	
名古屋工業大	1	1	1	
滋賀大	1	1	1	
京都大	8	2	10	10
京都教育大	1	1	1	
京都工芸繊維大	2	2	2	
大阪大	8	8	8	
大阪教育大	1	1	1	
神戸大	13	4	17	16
奈良女子大		1	1	1
島根大	1	1	1	
岡山大	15	15	15	
広島大	8	2	10	9
山口大	1	1	1	
徳島大	4	3	7	6
香川大	6	1	7	6
愛媛大	3	1	4	4
高知大	24	6	30	27
九州大	3	2	5	4
長崎大	1	1		
熊本大	1	1	1	
宮崎大		1	1	
鹿児島大	1	1	1	
計	129	32	161	149
昨年	109	31	140	131

私立大学	現	過	計	進学
岩手医科大学		1	1	1
東北医科大学		1	1	
国際医療福祉大	2	1	3	
自治医科大学		1	1	1
千葉工業大	1	1		
青山学院大	11	11	1	
学習院大	3	3		
北里大	1	3	4	
慶應義塾大	10	8	18	3
國學院大	3	3	1	
駒澤大	3	1	4	1
芝浦工業大	4	4	1	
順天堂大	1	3	4	
上智大	5	1	6	1
成城大		2	2	
専修大	1	2	3	
中央大	19	5	24	5
東海大		1	1	1
東京慈恵会医科大学		1	1	1

私立大学	現	過	計	進学
東京女子大	1		1	1
東京農業大	1	3	4	
東京薬科大	2		2	
東京理科大	10	5	15	2
東洋大	1	2	3	
二松学舎大	1		1	
日本大	3	1	4	1
法政大	4	6	10	3
星葉科大	1	2	3	1
東京都市大	1		1	
明治大	16	4	20	3
明治学院大	1	1	2	
明治薬科大	2	1	3	1
立教大	8		8	
早稲田大	17	7	24	9
桜美林大	1		1	
帝京大	1		1	
杏林大		1	1	
東京工芸大	1		1	
横浜薬科大	1		1	
麻布大	1		1	
神奈川歯科大	1	1	1	
朝日大		1	1	
中京大	1	3	4	
藤田医科大学	2	1	3	1
愛知医科大学		1	1	
京都産業大	6	1	7	1
京都女子大	1	2	3	
京都薬科大	5	3	8	2
同志社大	32	10	42	10
同志社女子大	1	1	2	
立命館大	46	17	63	5
龍谷大	31	1	32	8
大阪経済大	2	1	3	2
大阪工業大	7		7	2
摂南大	3	2	5	
大阪医療科大	5	2	7	4
大阪電気通信大	1		1	
追手門学院大	3		3	
関西医大	33	3	36	2
関西西医科大	1	1	2	1
近畿大	65	29	94	3
大和大	3		3	
甲南大	8		8	
神戸学院大	5		5	
神戸薬科大	9	1	10	2
兵庫大	1		1	
関西学院大	74	12	86	12
兵庫医科大学	1		1	
奈良大	1		1	
岡山理科大	1	3	4	1
川崎医科大学	1	2	3	3
就実大	1		1	
川崎医療福祉大	4		4	2
福山大	2		2	1
日本赤十字広島看護大	1		1	
四国大		1	1	
徳島文理大	8		8	
松山大	7		7	
高知学園大	1		1	1
久留米大		1	1	

私立大学	現	過	計	進学
福岡大	1	1	2	1
崇城大	1		1	
立命館アジア太平洋大		1	1	
計	513	166	679	109
昨年	463	157	620	110

公立大学	現	過	計	進学
高崎経済大		1	1	1
前橋工科大		1	1	
東京都立大	5		5	4
横浜市立大	1		1	1
岐阜薬科大		1	1	
滋賀県立大		1	1	
京都府立大	1		1	1
京都府立医科大学	1	1	2	1
大阪公立大	13	2	15	11
兵庫県立大	1		1	1
和歌山県立医科大学	1	1	1	
下関市立大	1		1	1
周南公立大	1		1	1
高知県立大	1		1	1
高知工科大	5	1	6	3
計	31	8	39	27
昨年	29	3	32	28

短大・大学校・海外大など	現	過	計	進学
就職	1		1	
短大	1		1	1
防衛大学校	2		2	1
防衛医科大学校	2		2	
職業能力開発総合大学校	1		1	
The University of Auckland		1	1	1
専門学校	2		2	2

2024年度大学入試総括

◆はじめに◆
共通テストも4年目。初年度(96回生)から高知大(朝倉キャンパス)を会場として行われていた試験でしたが、2ヶタ回生最後となる99回生の共通テストは高知県立大(永国寺キャンパス)で行われました。開始以来、定まらない試験難度に加え、「ロナ対応など「落ち着かない試験」であつた共通テストですが、4回目を迎えて少しは落ち着いてきたでしょうか…。

さて、99回生は新課程入試を翌年に控えた学年でした。志望調査の段階では、安全志向の強まりはみられず、「このまま最後までやりきつてくれるだろう」と確信する一方、「最終的に自己採点後の出願では、安全志向となってしまうのではないか…」。そんな心配も頭をよぎる複雑な心境の中での2024年度入試でしたが、生徒たちは一人一人がそれぞれの志望に向けた努力を重ね、安易な方向に走ることなく受験に立ち向かってくれました。学年団の先生方もそんな生徒たちを最後まで応援し、素晴らしい成績をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名)も見事です。

◆2024年度人試結果◆
2024年度入試の現役(99回生)の国公立大学の合格数は160、合格率は85.1%。2年前、2022年を修めた「昨年(95回生)の合格数146、合格率80.9%を超えるものであり、脅威的な数字です。」と書きました。この結果には言葉も出ないくらい本当に驚いています。また、難関大に関しては、東京大7名(現役4名)、京都大10名(現役8名)、大阪大8名(現役8名)と見事な成果をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名+既卒8名)、国公立大医学部医学科の合格数5名(現役4名+既卒1名)、難関国公立大(旧7帝大・神戸・橋・東工)59名(現役46名+既卒13名)、京都大10名(現役8名+既卒2名)昨年40名(現役33名+既卒7名)昨年8名(現役6名+既卒2名)が、最後まで粘り強く頑張り通して欲しいと思います。

◆2025年度入試に向けて◆
2025年度入試から、いよいよ3ヶタ回生が登場します。その幕開けとなる100回生の入試は新課程入試。共通テストでは、新教科「情報」に加え国語や数学(②)の試験時間延長とますます負担が大きくなります。が、最後まで粘り強く頑張り通して欲しいと思います。

たちを最後まで応援し、素晴らしい成果を収めてくれました。

◆はじめに◆

共通テストも4年目。初年度(96回生)から高知大(朝倉キャンパス)を会場として行われていた試験でしたが、2ヶタ回生最後となる99回生の共通テストは高知県立大(永国寺キャンパス)で行われました。開始以来、定まらない試験難度に加え、「ロナ対応など「落ち着かない試験」であつた共通テストですが、4回目を迎えて少しは落ち着いてきたでしょうか…。

さて、99回生は新課程入試を翌年に控えた学年でした。志望調査の段階では、安全志向の強まりはみられず、「このまま最後までやりきつてくれるだろう」と確信する一方、「最終的に自己採点後の出願では、安全志向となってしまうのではないか…」。そんな心配も頭をよぎる複雑な心境の中での2024年度入試でしたが、生徒たちは一人一人がそれぞれの志望に向けた努力を重ね、安易な方向に走ることなく受験に立ち向かってくれました。学年団の先生方もそんな生徒たちを最後まで応援し、素晴らしい成績をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名)も見事です。

◆2024年度人試結果◆
2024年度入試の現役(99回生)の国公立大学の合格数は160、合格率は85.1%。2年前、2022年を修めた「昨年(95回生)の合格数146、合格率80.9%を超えるものであり、脅威的な数字です。」と書きました。この結果には言葉も出ないくらい本当に驚いています。また、難関大に関しては、東京大7名(現役4名)、京都大10名(現役8名)、大阪大8名(現役8名)と見事な成果をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名+既卒8名)、国公立大医学部医学科の合格数5名(現役4名+既卒1名)、難関国公立大(旧7帝大・神戸・橋・東工)59名(現役46名+既卒13名)、京都大10名(現役8名+既卒2名)昨年40名(現役33名+既卒7名)昨年8名(現役6名+既卒2名)が、最後まで粘り強く頑張り通して欲しいと思います。

たちを最後まで応援し、素晴らしい成果を収めてくれました。

◆はじめに◆

共通テストも4年目。初年度(96回生)から高知大(朝倉キャンパス)を会場として行われていた試験でしたが、2ヶタ回生最後となる99回生の共通テストは高知県立大(永国寺キャンパス)で行われました。開始以来、定まらない試験難度に加え、「ロナ対応など「落ち着かない試験」であつた共通テストですが、4回目を迎えて少しは落ち着いてきたでしょうか…。

さて、99回生は新課程入試を翌年に控えた学年でした。志望調査の段階では、安全志向の強まりはみられず、「このまま最後までやりきつてくれるだろう」と確信する一方、「最終的に自己採点後の出願では、安全志向となってしまうのではないか…」。そんな心配も頭をよぎる複雑な心境の中での2024年度入試でしたが、生徒たちは一人一人がそれぞれの志望に向けた努力を重ね、安易な方向に走ることなく受験に立ち向かってくれました。学年団の先生方もそんな生徒たちを最後まで応援し、素晴らしい成績をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名)も見事です。

◆2024年度人試結果◆
2024年度入試の現役(99回生)の国公立大学の合格数は160、合格率は85.1%。2年前、2022年を修めた「昨年(95回生)の合格数146、合格率80.9%を超えるものであり、脅威的な数字です。」と書きました。この結果には言葉も出ないくらい本当に驚いています。また、難関大に関しては、東京大7名(現役4名)、京都大10名(現役8名)、大阪大8名(現役8名)と見事な成果をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名+既卒8名)、国公立大医学部医学科の合格数5名(現役4名+既卒1名)、難関国公立大(旧7帝大・神戸・橋・東工)59名(現役46名+既卒13名)、京都大10名(現役8名+既卒2名)昨年40名(現役33名+既卒7名)昨年8名(現役6名+既卒2名)が、最後まで粘り強く頑張り通して欲しいと思います。

たちを最後まで応援し、素晴らしい成果を収めてくれました。

◆はじめに◆

共通テストも4年目。初年度(96回生)から高知大(朝倉キャンパス)を会場として行われていた試験でしたが、2ヶタ回生最後となる99回生の共通テストは高知県立大(永国寺キャンパス)で行われました。開始以来、定まらない試験難度に加え、「ロナ対応など「落ち着かない試験」であつた共通テストですが、4回目を迎えて少しは落ち着いてきたでしょうか…。

さて、99回生は新課程入試を翌年に控えた学年でした。志望調査の段階では、安全志向の強まりはみられず、「このまま最後までやりきつてくれるだろう」と確信する一方、「最終的に自己採点後の出願では、安全志向となってしまうのではないか…」。そんな心配も頭をよぎる複雑な心境の中での2024年度入試でしたが、生徒たちは一人一人がそれぞれの志望に向けた努力を重ね、安易な方向に走ることなく受験に立ち向かってくれました。学年団の先生方もそんな生徒たちを最後まで応援し、素晴らしい成績をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名)も見事です。

◆2024年度人試結果◆
2024年度入試の現役(99回生)の国公立大学の合格数は160、合格率は85.1%。2年前、2022年を修めた「昨年(95回生)の合格数146、合格率80.9%を超えるものであり、脅威的な数字です。」と書きました。この結果には言葉も出ないくらい本当に驚いています。また、難関大に関しては、東京大7名(現役4名)、京都大10名(現役8名)、大阪大8名(現役8名)と見事な成果をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名+既卒8名)、国公立大医学部医学科の合格数5名(現役4名+既卒1名)、難関国公立大(旧7帝大・神戸・橋・東工)59名(現役46名+既卒13名)、京都大10名(現役8名+既卒2名)昨年40名(現役33名+既卒7名)昨年8名(現役6名+既卒2名)が、最後まで粘り強く頑張り通して欲しいと思います。

たちを最後まで応援し、素晴らしい成果を収めてくれました。

◆はじめに◆

共通テストも4年目。初年度(96回生)から高知大(朝倉キャンパス)を会場として行われていた試験でしたが、2ヶタ回生最後となる99回生の共通テストは高知県立大(永国寺キャンパス)で行われました。開始以来、定まらない試験難度に加え、「ロナ対応など「落ち着かない試験」であつた共通テストですが、4回目を迎えて少しは落ち着いてきたでしょうか…。

さて、99回生は新課程入試を翌年に控えた学年でした。志望調査の段階では、安全志向の強まりはみられず、「このまま最後までやりきつてくれるだろう」と確信する一方、「最終的に自己採点後の出願では、安全志向となってしまうのではないか…」。そんな心配も頭をよぎる複雑な心境の中での2024年度入試でしたが、生徒たちは一人一人がそれぞれの志望に向けた努力を重ね、安易な方向に走ることなく受験に立ち向かってくれました。学年団の先生方もそんな生徒たちを最後まで応援し、素晴らしい成績をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名)も見事です。

◆2024年度人試結果◆
2024年度入試の現役(99回生)の国公立大学の合格数は160、合格率は85.1%。2年前、2022年を修めた「昨年(95回生)の合格数146、合格率80.9%を超えるものであり、脅威的な数字です。」と書きました。この結果には言葉も出ないくらい本当に驚いています。また、難関大に関しては、東京大7名(現役4名)、京都大10名(現役8名)、大阪大8名(現役8名)と見事な成果をあげました。国公立大医学部医学科の合格数26名(現役18名+既卒8名)、国公立大医学部医学科の合格数5名(現役4名+既卒1名)、難関国公立大(旧7帝大・神戸・橋・東工)59名(現役46名+既卒13名)、京都大10名(現役8名+既卒2名)昨年40名(現役33名+既卒7

挫折から生まれた 想定外の夢、実現へ

カーレーサー 岡本 大地 (92回生)



チーム「KSM」所属

人生を変えた オンラインイベント

中学生時代は地元・土佐市の公立中学校に入学し、平日は塾へ通い勉強。土曜日、日曜日は、県内唯一の野球クラブチームに所属していました。地元の中学生に通いながら、勉強も野球もそれなりにうまくいき、勉強の成績は常に上位、野球では全国大会に何度も出場して自分の将来の可能性に胸躍らせていました。中学卒業後は、ずっと目標だった土佐高校に入学し、引き続き中学時代の勉強と野球を両立させる思いで鼻息を荒くしていました。しかし、実際に高校生活が始まると、勉強についていけず、部活も夜遅くまで。さらに実家の土佐市から学校まで自転車で通っていたことから、往復2時間の通学時間が必要となり、中学時代とは比べ物にならないほど、自身を疲弊させていました。

到底、勉強も野球も打ち込めるような身体のコンディションではなく、どちらを切り捨てる必要があり、10年以上取り組んでいた野球を辞めることになりました。土佐高校を卒業して大好きな自動車メーカーの社会人野球に所属しプロの選手を目指す。高校入学前に描いていた将来図が、入学後たった2ヶ月で白紙へとなりました。夢を失い、特に目標も無いまま学校生活を送り、まさにもぬけの殻状態でした。次第に、勉強をするやりがいを失い、昔から好きだったレースゲームをプレイすることで自分を保っていました。学校が終わって帰宅したらすぐにP.C.を起動、課題や受験勉強をすることもなく、レースゲームに熱中する毎日でした。

現実のレースへ、 そしてカーレーサーとして

高校3年生の時、費用負担が少なく参戦できる特別なレースが韓国で開催されました。



車輪名 BRMトヨタカローラ高知GR86

されるという情報を知り、このレースに参戦したいという想いで校長先生へ「自動車免許の取得」と「海外レースへの参加」を直談判しに行きました。担任の先生と両親のおかげで、当時の校長が快諾してくださいり、レース参戦が実現しました。それ以来は、現実のアメリカのレースに参戦する権利を与える」というものでした。全世界で行われたこのイベントはオンライン上で開催され、このショートアウトに生き残るために、より一層毎日の練習に励みました。そして、なんとか予選を勝ち抜き決勝戦へと駒を進めました。レースの開催時間は欧米のゴールデンタイムが基準となることから、日本では平日の午前中にレーススタートすることになり、その日の学校の授業は寝坊か仮病で遅れて行つた気がします。結果的には世界9位でレースを終えることになり、シユートアウトの結果を待ちましたが、そのレースで10位だった人が、オーディションを勝ち取りました。現実のレースに参戦する権利を得ました。「なんで自分より順位低かったのに…」ただただ悔しい想いでしたが、このイベントをきっかけに自分の中で「現実のレースに出たい!」という想いが強くなりました。

それ以来は、現実のレースに参戦しながらトップカテゴリへのステップアップを目指す。まずは、自分自身のレーシングチームを設立し活動しています。また、自身のビジネスを構築しようとしているところです。

旅と酒を愛した文人・大町桂月 —開校記念碑文の筆者と主旨をさぐる—

中城正堯（30回生）



母校の創立100周年を記念して

2020年に刊行された『創立百年史』は、千ページ近い大著であり、その冒頭と末尾に「開校記念碑文」が大きく掲げられている。だが校歌や寮歌については、本文で作曲家・作詞家についての紹介が添えてあるのに、開校記念碑文については、「大町桂月撰

1923（大正12）年、川崎・宇田両家への感謝の意を表したものとして保護者が建立。戦災で焼失したが創立50周年を機に振興会が碑文を銅板に刻む形で復刻」と記すのみだ。記念碑建立の主旨も建立者も疑問だし、碑文の筆者紹介もない。

特に筆者の大町桂月については、当時の盛名振りを知る人も少ないと思われる。そこで、その人物像と土佐中との関係、そして開校記念碑の建立主旨と建立者、この碑に対する生徒の受け止め方を、紹介検討したい。（文中敬称略、肩書は現役当時、引用文は原文のまま）

桂月と三根は帝大時代の友人

桂月の本名は大町芳衛で、1869（明治2）年高知市で元土佐藩士の家に生まれる。早くに上京して苦学しながら国粹主義者・杉浦重剛や作家・落合直文のもとで学び、1893年に帝国

大学文科大学（東大文学部の前身）に

入学する。在学中から美文家で知られ、卒業直後に出した詩文集『黄菊白菊』が青年たちから熱狂的な人気を得る。以来、評論・紀行・隨筆を精力的に執筆。日露戦争中には、与謝野晶子が出征した戦線の弟に呼びかけた詩「君死にたまふこと勿かれ」を、国家に対する危険思想として激しく攻撃して話題になる。

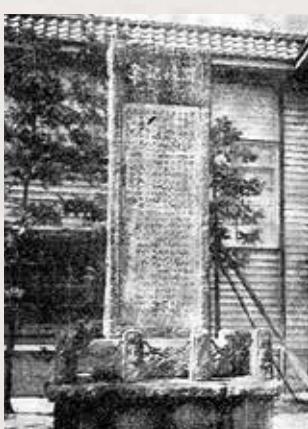
大町文学研究者の高橋正（24回・高知高専教授）は著書『評伝 大町桂月』（高知市民図書館）で、こう論じている。〈晶子の詩は弟への肉親の思いを歌い上げた素朴な作品。桂月の批判はこの詩が単なる反戦詩でなく、天皇への批

判・怨嗟の感情を含んでいると解釈。

文学作品を批評するのに特定のイデオロギーやモラリズムを持ち出すのは過誤で、両者ともまだ若く、文学論争としては未熟だった。また杉浦の国粹主義は、狭隘・固陋の思想ではなく、明的・改良主義的・進歩主義的で、大町もその傾向をたどっていた。〉



大町桂月（『評伝 大町桂月』より）



巨大な開校記念碑



筆山の麓に落成した校舎、右手に開校記念碑



土佐中学 三根校長



恩師ケーベル博士



学友 中城直正

学する。まだ教授の主流は外国人で、その講義は英語だった。帝大で中城はドイツ人リースから近代実証史学を学び、中学教師を経て初代高知県立図書館長になる。三根はやはりドイツ人ケーベルから西洋哲学を教わり、各県の中学校教諭・校長を経て、新設の私立土佐中学校に迎えられる。三根が土佐中に赴任したころ、大町も東京に出て以来38年ぶりに初めての帰郷を果たし、高知で再会する。なお明治期には、多くの県で中学校（5年で卒業）が最高学府であった。

大町は帝大卒業後に島根県で一時中学教諭をしていたが、明治後期から大正にかけては著名な文学者として全国を行脚、各地の山野を巡っては紀行文や隨筆を執筆、その疲れを酒で癒やす生活を送っていた。いわば今日のナチュラリストの先駆者であつた。その雅号・桂月は郷里の月の名所・桂浜から取つたものだが、訪ねたことはなかつた。しかし、いつしか望郷の念止み難くなり、



桂浜の桂月先生記念碑（永国雅彦撮）

1918(大正7)年に姉や弟子の作家・

田中貢太郎（高知市仁井田出身・大人気の大衆作家）とともに帰郷、先祖の墓参後には月の名所桂浜、浦戸

湾口を挟んだ対岸の田中家、さらに県内の景勝地を探訪、40日間にわたって酒漬けの毎日を過ごして帰京する。この際に桂浜で詠んだ「見よや見よみな月のみのかづら浜 海のおもよりいづる月かげ」が、桂月先生記念碑に刻まれて、浜辺に建っている。

1920(大正9)年4月に桂月は再度帰郷、半年間滞在して足摺から甲浦まで回っている。県立図書館長になつていた中城直正のこの年の日誌（高知市民図書館「中城文庫」蔵）に、「9月17日大町桂月来室」「11月10日土佐中三根校長面会」とあり、

第一條は、「本財團法人ハ國家有爲ノ人材ヲ養成スルノ目的ヲ以テ中學校を經營スル」と明記、開校記念碑の主文はこれらを受けている。末尾の

（宇田・川崎）二氏の恩に報ずる」は、生徒への「財團設立者への報恩の念を忘れない」と大きくうたう。なぜか平成の世になつて、「報恩感謝の理念」が建学の精神に新しく加えられる。報恩感謝のことばが登場するのは三代大嶋光次

とある。

ところが母校出身の曾我部・松浦兩校長のあと、1991年に6代校長として森田幸雄が着任、宇田耕也（創立者の一人宇田友四郎の孫）理事長とともに、校長も県立城東中学（現追手前高校）出身者となつた。すると、翌年の『学校案内』に「本校は、川崎宇田財團法人により、報恩感謝の理念のもと社会に貢献する人材を養成することを建学の精神として創立」

がけて三根校長によつて作られた

記念碑主文は建学主旨 「人材の養成」

ところが母校出身の曾我部・松浦兩校長のあと、1991年に6代校長として森田幸雄が着任、宇田耕也（創立者の一人宇田友四郎の孫）理事長とともに、校長も県立城東中学（現追手前高校）出身者となつた。すると、翌年の『学校案内』に「本校は、川崎宇田財團法人により、報恩感謝の理念のもと社会に貢献する人材を養成することを建学の精神として創立」

と大きくなつた。なぜか平成の世になつて、「報恩感謝の理念」が建学の精神に新しく加えられる。報恩感謝のことばが登場するのは三代大嶋光次

とある。

校長の時代で、その「教育10目標」の一つとして強調されたが、建学の精神としてではない。そして、森田校長の退任後も、『学校案内』にこのことばが使われ続けた。この間、沈滯した学校を蘇らせるべく粘り強く取り組んだのが、宮地貫一（21回、文部事務次官）であった。まず1997年の『三根先生追悼誌』復刻を皮切りに、主要人事の更新から新校舎建設まで、本来の建学の精神を蘇らせつつ活気あふれる21世紀の土佐中高へとリードし、創立100周年へとつなぐ。

依頼、学校として建てたのだ。桂月は建学の主旨に加えて二氏への報恩をも子弟に呼びかけているが、記念碑の企画・制作・経費のどこにも「父兄既に恩を知る」などとは記させない。碑文後半の「二氏の恩」や「君國の恩」は、いかにも桂月らしい表現である。

記念碑には、大町桂月撰（文）、松村翠濤書とあるのみで建立者名がない。これは父兄の意を汲みながらも、学校が建てたからだろう。1930年の『土佐中學校要覽』の沿革にも「大正十二年一月開校記念碑建設」とあるのみだ。

筆山の麓「三根先生の大理想」

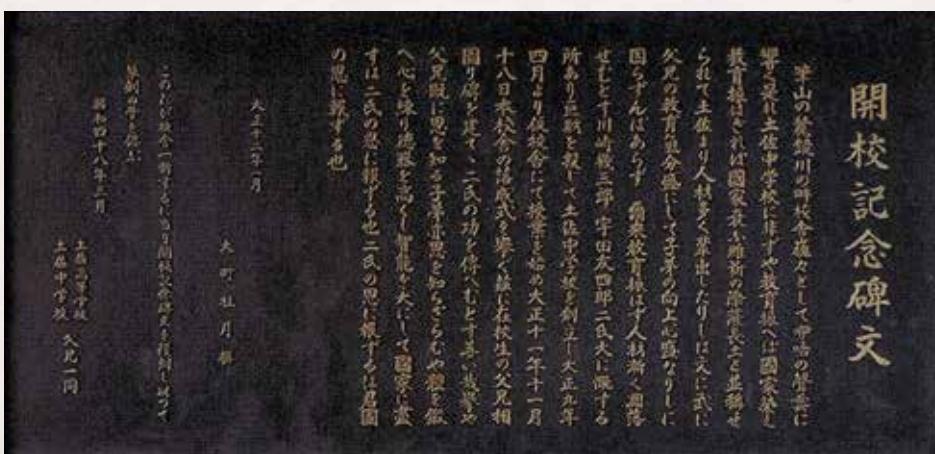
た」と述べている。高橋と土佐中同
期で今も元気な山中和正に電話で確
認すると、「たしかに暗誦させられた
が、もう戦争激化であまり熱心では

なかつた。われわれは記念碑や校歌、そして三根校長への思い入れもさほどなく、のちに近藤久寿治（6回）先輩などの熱い思いに触れておどろいた」とのことだつた。

そこで、『三根先生追悼誌』（昭和18年刊）に追憶録を寄せた40名ほどの中の卒業生（1～16回）の文から、記念碑への言及を調べてみた。井上清（7回、京大教授）の「三根圓次郎先生（略云）」に碑文から的一部引用する。

「生略伝」は碑文から的一部引用があるのをはじめ、随所に三根校長の教育理念を碑文の文言を使って語っている。しかし、初期卒業生の文には記念碑 자체に触れたものはない。

時父兄会は存在せず、「鞠恩感説」という言葉も碑文には使われてない。三根校長は、発起人である藤崎朋之（自由民権運動家・高知市長）などの建学主旨を受け自らまとめた「設立趣意書」と、建学に賛同して巨費を出資した川崎・宇田両家のことも含め、開校の経緯を桂月に告げて碑文を



1973(昭和48)年に「父兄一同」によって再建された銅板の開校記念碑

筆山の麓「三根先生の大理想

き所を語っている」と述べ、14回の松田仁作は「草創以来人道正義を高唱しつゝ、胸から胸へと伝えられし土中精神筆山の麓鏡川の畔自由の天地この理想の学園」と記す。16回の川島徑は「開校記念碑は：學校創立の大理想であり、：土中健児よ、奮起せよ」と、呼びかけている。

これは、三根校長が健在で自主自律・自学自習を尊ぶご本人から直接教えを受けた世代と、戦雲が迫るなか二代青木校長に記念碑文を暗誦させられた世代の違いであろう。特に、初期土佐中生には学力優秀ながら、家が貧しく中学には進めない境遇だったが、校長の家庭訪問による審査や、給費生制度（授業料免除や学費の支給）のお陰で学ぶ機会を得た生徒もおり、開校記念碑にたよるまでもなく校長や創立者への感謝の気持ちが強かつたと思われる。

『冬籠帖』に見る桂月の晩年

最後に大町桂月の最晩年を紹介しよう。高知に二度目の帰郷後、1922（大正11）年からは『桂月全集』（全12巻 興文社）を刊行、この頃から青森県奥入瀬川の鳴温泉を拠点に、北海道・東北の名山を探勝、1925年6月この鳴温泉で胃潰瘍のため永眠する。享年56歳であった。奇しくも

同年1月に学友・中城直正も上京中の交通事故がもとで亡くなる。数年後、桂月の絶筆となつた『冬籠帖』を次男・大町文衛（昆虫学者・随筆家）が和綴の豆本（106×83ミリ）にまとめて出版、わが家にもその1冊が虫食いだらけだが残つてている。

『冬籠帖』には、終の住まいと

定めた鳴温泉での、1924年末から翌年にかけての暮らしぶりと想いが戯画を交えて綴つてある。雪に閉じ込められ、素朴な村人と交わりながら、温泉と酒を存分に楽しんでおり、文豪というより剽軽アの赤化を心配した詩もあ上がりの爐の火から爐国（ロシア）の赤化を心配した詩もあるが、多くは嚴寒の鳴温泉の自然とくらしを楽しげに詠つており、スケッチも達者なものだ。画文をいくつか転載して、本稿を閉じたい。

『向陽プレスクラブ会員寄稿文集
2020-2024より』

中城 正堯
30回生。高知市種崎生まれ。土佐中高では新聞部。学研編集長・くもん出版社長・日本城郭協会理事長を経て、国際浮世絵学会理事。



1.桂月の絶筆『冬籠帖』
106×83ミリの豆本



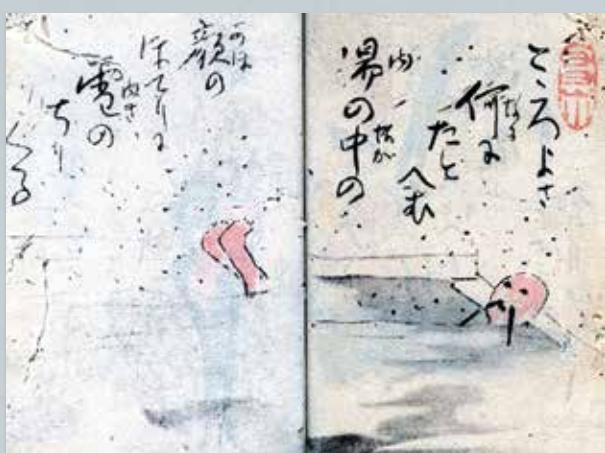
2.巻頭の本人近影、
このコートがお気に入り



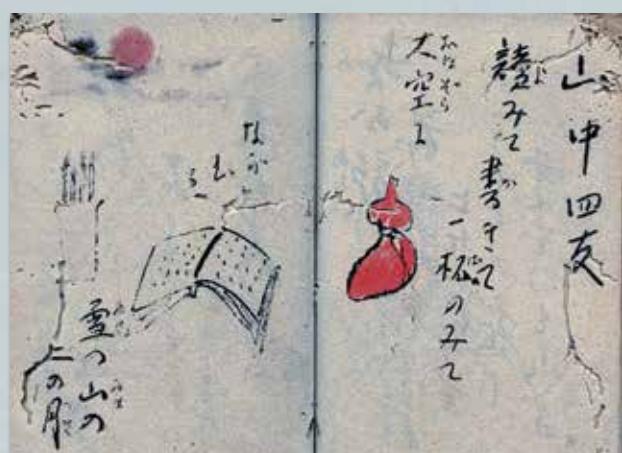
3.よくしゃべる十三さいの女の子
めしは七杯くひますといふ



4.老人の顔を昔の紅に
かへすは酒の外なかりけり



5.こころよさ何にたとへむ湯の中の
顔のほてりに雪のちりくる



6.山中四友 読みて書きて一杯のみで大空に
ながむる雪の山の上の月

北海道支部

事務局長 山本 隆昭(53回生)

北海道支部の活動についてですが基本的な活動は、秋に開催している支部総会と支部便りの寄稿でしたが、COVID-19の影響で総会は2019年度を最後に開催できていません。そのため、役員も全員がそのまま留任ということになりましたが、今年度はなんとか開催しようということで準備を進めております。

会員の皆様にお会いできるのは楽しみですが、最近の物価高の影響で懇親会費は以前よりも高くなりそうです。

さて、今年は全国で熊の出没が何かと話題になっていますが北海道でも例外ではありません。先日出張で道北に行つたのですが、列車が急に減速したため何が起きたのかと思っていたら車内放送で「熊が前方を走っているので減速しました」との放送。前方に行ってみると写真の様に熊が線路の上を走っていました。熊も本気で走れば時速60km位で走るそうなのでそれほど減速しなくとも大丈夫だったかもしれません。が、暫くして左側の草むらに逃げていきました。その後には国道が通つてるので国道を渡つて逃げて行つたのでしょうか。誰かが撮影したこの時の動画が全国放送のニュースで流れています。



士別近郊で熊

関東支部

幹事長 町田 憲昭(67回生)

関東支部ではコロナ前と同じように色々なイベントを開催して、会員同士が交流しています。

●筆山会の新年会・毎年1月の新年会は、年の最初に行う明るく華やかな集いになっています。

筆山会では定例の昼食会や閉幕将棋も楽しんでいます。

●支部総会・今年2024年は4回の皆様（34回生から94回生まで）が入念な準備を行い、東京の日比谷公園に面した日本プレスセンター・ビルを会場として行いました。当

日は懐かしい映像も駆使して、会場が一体となる盛大な会となりました。総会は概ね6月に開催しており、高校を卒業して上京し、一息ついたころの学生にも参加してもらい、県外での同窓のつながりの良さを感じてもらいたいと思っています。



の海外研修・留学を応援しています。
イベントに皆勤賞で参加される方はもちろん、初参加の方や数年ぶりに参加する方にも楽しんでいただければと思います。関東支部のホームページでも情報発信しています。

層部に高級ホテルの誘致を行なう検討がされており、2024年中に計画を固める目処とし、2029年までに建て替える方針です。

名古屋駅のリニア発着駅開発に伴うリニューアルも予定されていますので、東海地方の更なる変化には是非ご注目くださいね。

東海支部

事務局長 濑沼 憲司(64回生)

同窓生の皆様、こんにちは。今年5月20日、四年ぶりに東海支部総会をアイリス愛知で開催することができました。濱田一志校長先生はじめ各支部の皆様にもご参加いただき、久しぶりの総会を楽しく過ごすことができました。

さて、東海地方では名古屋駅周辺の再開発が一段落した後、現在栄地区にて様々な再開発が進められています。まずは中日ビルの建替えが終わり、今年4月にオープンしました。7階までの造形は元のビルを彷彿とする造形になつております。上の9階から32階にオフィス・ホテルが入っています。また、旧中日ビル時代からあつた高知県事務所が7階全国国産観光センターに再開発後も戻つてきました。更には錦三丁目25番街区の大規模プロジェクトが進んおり、地上41階地下4階高さ211mの超高層ビルで、地下下階から低層部にパルコ、4~6階にシアターランドマークとなる予定です。また、名古屋三越栄店の入るオリエンタルビルも資系高級ホテルという複合タワーとなり、栄地区最高層のラントマークとなる予定です。また、名古屋三越栄店の入るオリエンタルビルも建設による再開発を計画されており、地下34階地下4階高さ180mで、再び三越が出来ます。

●土佐ハイクの会・毎年9月に泊まりがけで、山登りと俳句を楽しんでいます。今年は伊豆の金冠山山頂からの駿河湾の眺めを堪能しました。はちきん会・女性会員を中心として、食事や歓談を楽しんでおり、高知の女性の元気の良さを感じられる会です。若手の会・学生や若手社会人を中心、東京大学駒場キャンパスの生協食堂を会場として、低コストですが中身の濃いハイクオリティなイベントを行なっています。今年は12月7日（土）の開催を予定しています。

最後になりますが、今後も北海道支部を宜しくお願い致します。また、転勤・進学などで北海道にいらっしゃる方がおりましたら、北海道支部まで連絡を下さい。本部を通してでもかまいませんので宜しくお願ひ致します。

関西支部

事務局長 岡田 晋典(76回生)

関西・再始動

去る6月2日、久しぶりに関西支部総会・懇親会を復活開催した。前回の開催は2020年2月のことだつたから、かれこれ4年4ヶ月ぶりである。その時は「何とかなるだろ」という雰囲気がまだあつたが、その2ヶ月後に1回目の緊急事態宣言が発令され、本格的なコロナ禍に突入していく。そして関西支部としても活動がビタリと止まつた。

2023年度になつて少しづつ他の支部でも総会復活の動きがあつたが、関西支部はまだ動けなかつた。それはコロナ禍だけが理由では無い。運営の人手不足によるところが少なからずあつた。

しかし、そろそろ関西支部としても動き出さねばならない、と立ち上がつたのは去年の暮れだつただろうか。関西に移住された小村前校長先生（49回生）を取り込み、体制を一新して、2024年度に復活すべく動き始めた。【関西・

再始動】ここに始まる――総会復活にあたつては案内状の簡素化や、申し込みはWebフォームまたはメールに限定し事務作業を低減するなど、総会運営の働き方改革も

続しています（編集部の皆様、ありがとうございます）。38池田基金では、関東支部若手会員店する他、中層部にコンベンションホール、高



できるだけやってみた。Facebookや口コミでも宣伝し、小村先生には教え子さんに声を掛け頂いた。前回の参加者は50名ほどだったから、今回の目標人数は80名としよう。さて何人集まることがやら…という余計な心配もよそに、蓋を開ければ100名超の倍増。ゲストを含めると約120名もの同窓生が集まることとなつた。こりやめつた、こじゃんと多いぜよ。関西弁に染まり忘れつつある土佐弁がつい口にする。会場のキヤバは130名、もうギリギリである。支部最多動員数を誇る関東支部の背中に見えた。なんだからだで大盛況を納めたことに、本校より濱田校長先生をはじめ、本部・各支部から多数のゲストと、そして何よりご参加頂いた関西支部の百余名の同窓生へ感謝申し上げたい。これを一過性のものとせず、リピーターにするにはどうやつていくか。そして当日の不手際という改善のタネは確実に来年に向けて育てていくので、今後の関西支部にご期待ください！

広島支部

前支部長

沖田 道子(41回生)

今年2月、Jリーグサンフレッチェの翼（ウイング）をイメージした新サッカースタジアムが、広島市の街中に開業しました。「恒久平和と、夢や希望を持つて明るい未来へ羽ばたく」と願いが込められています。広島駅周辺では再開発が進められており、2025年春には、さらなる賑わいが生まれることが期待されています。

広島での支部総会では、支部会員が同級生に直接連絡し、ボランティアで講演をお願正在ます。私が支部長を務めた2012年からコロナで中止された期間を除く、11年の期間だけでも、以下のような講師をお招きました。

ノンフィクション作家塩田潮様／絵本作家西村繁男様（40回生）佐竹真一元大阪国際大学教授／森郁夫前関東支部支部長（41回生）、

西田博元法務省矯正局長（47回生）、傍士銘太土佐中・高理事長／村木厚子元厚生事務次官（49回生）、中谷元衆議院議員／都築政起広大名誉教授（51回生）、評論家門脇護（門田隆将）様（53回生）、濱口豊ビッグビート代表取締役（56回生）。

各分野で活躍の多彩

な講師の方に少人数で

じっくりとお話を伺った

間を過ごします。また例

年学校／本部／他支部か

らご出席

いただくとも

に、松山・宇部・呉・山

陰からも同窓生をお迎え

しています。土佐弁が飛び交い、年齢を越えた

交流が生まれています。



名も一年に一度の再会を願つて「七夕総会」と名にしてスタートした。私は瀬戸大橋開通の年（昭和63年、1988年）に、ひょんな縁で東京の会社勤務から香川大学に赴任しました。その後、香川支部からの案内を頂き、平成17年「七夕総会」に初めて参加したと思います（当時も土田教授が支部長）。その頃は、JR高松駅近くのシンボルタワー17Fで開催されていましたが、コロナ禍の期間中、その場所が利用不可となりました。

しかしながら場所を変えを行い、また以前の様に、旧

で有名な松崎圭祐町病院センター長（50回生）

にご講演いただく予定です。北村支部長は、若

い世代の会員の参加を増やしたいと企画していま

ますので、奮ってご参加ください。今後とも広

島支部をよろしくお願ひいたします。

コロナ禍を乗り越えて徳島にも阿波踊りが

格的に戻ってまいりました。コロナ禍の間は中

止されたり規模を縮小したり、工夫を重ねての

実施でしたが、この時期には台風という邪魔者

も登場します。しかし、2024年は久々に4

日間晴天の中行われました。よさこい祭りのよ

うな賑やかさとはひと味違い、伝統とともにあ

る様式美を県内の方々は言うまでもなく、多く

の県外からのお客様にも堪能していただいたよ

うです。東海支部の前田支部長も8月12日にご

友人とお越しになつていただけました。前田支

部長は、なんとよさこいから阿波踊り、という

強行軍。残念なことに宿が4月の時点で埋まつ

ております。高松にご宿泊なさいましたがあ

り、阿波踊り会館では年中阿波踊りを

ご覧になります。是非、

皆様も高知から近いよ

うで意外と訪れる機会

のない徳島へお越しください

ださるようお願い申し上げます。

徳島支部

幹事長

山本 俊輔(62回生)

皆様こんにちは。徳島支部62Nの山本俊輔と申します。我々徳島支部は各支部の中でも最も新しい、つまり歴史も浅い支部です。他の支部での総会・懇親会に参加させていただくたびに歴史が紡いでいく会の重みを実感しているところです。講演会や勉強会、そういうたたな楽しみも盛り込みつつ同窓生の皆様と交流をする、という最初の一歩の部分を毎回学ばせていただいている

います。

前回2023年の総会では、北村和弘氏（52回生T.H.）が支部長に選出されました。2024年11月9日の支部総会では、腹水治療で有名な松崎圭祐町病院センター長（50回生）にご講演いただく予定です。北村支部長は、若い世代の会員の参加を増やしたいと企画しています。

島支部をよろしくお願ひいたします。しかしながら場所を変えを行い、また以前の様に、旧交を温めるべく、昨年2023年から「七夕総会」を

復活、レクザムホール（香川県民ホール）の大ホール（香川県民ホール）の6F「シーラヌ」で開催するこ

とに。コロナ禍を

経て久しぶりに集

まることで、同胞

が集い盃を交わし、

心を通わすことの

素晴らしさを、以

前にも増して団結

締める総会となりました。



香川支部総会・締めの校歌齊唱写真（2024年7月6日（土）@レクザムホール）
左が指揮側（中央）和田 庄平（81回生）、（左側）森田 能史（81回生）、（右側）辻 圭太（85回生）
右が参加者

2023徳島支部総会にて

先輩後輩交流会を引き継いで

堅田和希（83回生）

今年から先輩後輩交流会の代表幹事を引き継ぎました、83回生の堅田和希と申します。2014年から続く当会ですが、私は2016年にUTAーンした時から参加させていただいております。当時、まだ高知の知り合いがほとんどおりませんでしたが、当会を通して仕事の面でも、プライベートの面でも、たくさんの出会いがあり土佐のありがたさに改めて気づかせていただきました。

特に同窓会で印象に残っておりますのが、コロナ前の士業の土佐高校卒業生の会の際に、46回生の平山昌信さんが「損得を抜きにした同窓生という繋がりが、南海大地震といった有事の際にこれ以上ない力を發揮する」というお話をされていました。様々な分野で活躍する人材の宝庫である土佐高校卒業生の力が結集

すれば、どんなことでも乗り越えることができるのではないかという希望を持つて、私自身も精進していくなければならないと思つております。

前代表の吉良先輩（73回生）から、代表引継ぎのお話をいただいた時は、私は過分なお話を頂戴したと、すぐにお返事することはできませんでしたが、これまでの感謝の意味も込めて思い切って引き継がせていただくこととしました。不慣れな幹事で至らぬことも多々あるかと思いますが、より皆様に楽しんでいただけれる会になるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒、宜しくお願いいたします。



左／代 表・堅田和希(83回生)
右／前代表・吉良祝人(73回生)



講演する岩崎智弥(87回生)



2023.10.28先輩後輩交流会

THE STEREO GANG

THE・ステレオギャング

世界大会 3位!!

95回生の吉本美羽さん、岡本遙樹さんが率いるロックバンドがドイツで開かれた世界最大級のインディーズコンテストで、世界第3位に輝いた！

編集後記

今年も無事向陽をお届けすることが出来、ホッとしています。今回は「5年ぶり」というワードが至るところで出てまいります。

やっと戻ってきた学校開催のホームカミングデー、支部だより。頑張る現役生に負けず劣らぬ活躍を見せる土佐高OBG。これからも元気を与えられる紙面づくりに精進してまいります。

副会長 北村恵美子(47回生)

2025年 来年5月予定 会員名簿調査のご案内

来年は創立105周年を迎えるわが母校。

記念事業の一環として、恒例の同窓会会員名簿を来年11月に発行する予定です。より精度の高い名簿を会員の皆様にお届けするために、名簿調査にご協力を宜しくお願い致します。

名簿調査は往復はがきで行います。記載事項に変更ない方も必ずご返信ください。

返信のない方には、電話で確認する場合がありますのでご了承ください。

創立105周年記念名簿作成委員会

土佐中学・高等学校 事務 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosa.ed.jp
土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) jiumkyoku@tosaobog.com (HP) https://www.tosaobog.com/
同窓会北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
(TEL) 011-756-2817 (FAX) 011-756-2817 (E-mail) yamat@den.hokudai.ac.jp
同窓会関東支部 事務局長 浦田理有 〒104-0061 東京都中央区銀座2-14-1 森山ビル4階 中央銀座法律事務所
(TEL) 03-5565-1315 (FAX) 03-5565-1316 (E-mail) m.urata@chuoginza-law.jp (HP) http://www.tosako-kanto.org/
同窓会東海支部 事務局長 濑沼憲司 〒455-0064 名古屋市港区本郷町6-7-5 フォレスト本郷602
(TEL) 052-837-5834 (E-mail) knzss@kza.biglobe.ne.jp (HP) http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/
同窓会関西支部 幹事長 藤原由親 〒541-0046 大阪市中央区平野町1丁目7番1号 堀筋高橋ビル6F 税理士法人アクセス 気付
(TEL) 080-9166-2400 (FAX) 06-6110-5419 (E-mail) y-fujiwara@act-cess.jp
同窓会広島支部 事務局長 大谷準一 〒734-0007 広島市南区皆実町6-3-26-902
(TEL) 082-253-5759 (FAX) 082-254-7523 (E-mail) spat56z@vesta.ocn.ne.jp (HP) http://tosa-hiroshima.xii.jp/
同窓会香川支部 事務局長 野村喜久 (担当=安岡和浩) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
(TEL) 090-4788-2143 (E-mail) yasuo15529@yonden.co.jp
同窓会徳島支部 事務局長 菊池義倫 (担当=藤坂徹) 〒770-0841 徳島市八百屋町3丁目10-2 四国銀行徳島営業部
(TEL) 088-622-4141 (FAX) 088-623-6676 (E-mail) t-fujisaka301-p@shikubank.co.jp